



1. 反核・平和
2. 環境保全
3. 福祉



発行／2017年1月15日 発行所／けやき平和コンサートの会
府中市新町2-68-20

けやき平和コンサートの会/「けやき混声合唱団」のホームページ
<http://www.keyaki-heiwa.com/> けやき平和コンサート で検索!

私たちの食の安全・安心を守れ

けやき平和コンサートの会

会長 本間 慎

(フェリス女学院大学元学長)
(東京農工大学名誉教授)

あけましておめでとございます。

昨年の第35回けやき平和チャリティコンサートは最初は入場者の十分な予測ができず心配していたのですが、みなさんの御努力によつて満席を確保出来、評判も大変よく安心しました。どうも有難うございました。

さて、私たちは環境保全についても健全、健康な環境を求めています。いま私たちの食を扱っている築地市場の豊洲新市場への移転問題が重要な段階にきています。石原都政の時、豊洲への移転は、多くの都民が反対しているのを押し切つて決定したのです。その豊洲は元東京ガスの工場があったところですが、昭和31年から石炭使用をやめるまでの長い期間膨大な量の石炭を乾留してガスを生産していたのです。その生産過程で発生する発ガン性のベンゼン、猛毒のシアン化合物、砒素、鉛、六価クロムなど有害物質を長期にわたつて排出し、40ヘクタールにわたる工場敷地内土壌を深くまで汚染させました。

東京都は十分対策を講じたといっていますが、いまでも有害化学物質が高濃度に検出されています。

そこで、私たちは、科学者として「築地市場の豊洲移転は中止し、国民・都民の食の安全・安心

を守れ」の声明を12月21日都庁記者クラブで発表しました。声明文は小池都知事に提出し、また、専門家会議の委員との話し合いを要求しています。

学者は、浅見輝男（茨城大名誉教授）、熊沢喜久雄（東大名誉教授）、瀬戸昌之（農工大名誉教授）、富山和子（立正大名誉教授）、本間慎（農工大名誉教授）、宮村光重（日本女子大名誉教授）これに賛同者52名です。小生が事務局担当。

今年も皆さんと一緒に平和コンサートについて語り合いながら素晴らしいコンサートを作っていきます。



2016年11月 第35回コンサート

第35回の節目を成功裡に終えて

副会長 齊藤寿美代

新春のお喜びを申し上げます。

昨年は、世界各地で危険なニュースが頻発し、平和と逆行する悪循環の波にのまれていくかの不安が募る年でした。今年は更に激動の年になると言われますが、人間の英知が活かされる平和な社会の営みを願うばかりです。

さて昨年の第35回目コンサートも大盛況のうち幕を閉じることが出来ました。様々な形で協力頂いた皆様への感謝の念を申し上げます。

本番を終えて2カ月経った今、改めて35年の重みを皆様に伝えることが出来た素晴らしいコンサートを満席のお客様と共有できたことをご報告致します。

発足当初から貫いて来た趣旨「反核・平和」のメッセージを音楽愛好家と専門家が同じステージから発信し感動的な舞台を分かち合うこと、併せて広島・長崎・福島・被爆者の会へチャリティ金を寄贈。共に大成功でした。

けやきコンサートならではのバラエティに富んだステージの今年の内容は更に35年の集大成とも言える豪華で内容の濃いコンサートでした。

まず客席を驚かせたオープニングの長唄、ウインホール開館以来初の長唄のステージ。緋毛氈と金屏風がおそかに設営された中に19人のプロ集団が凛とした黒紋付姿で登場。ホールが空気が伝統文化の世界へ誘われ、心の引き締まる緊張感が次の日本の叙情歌を歌う女声合唱や混声合唱に繋がり一部の最後は、「ピアノの詩人」と言われるザラフィアンの美しい抒情とダイナミズムの世界で締められました。

短い休憩時間にロビーで恒例の原爆写真展、お客様はご覧になられたでしょうか。忘れてはならない広島・長崎の負の遺産です。

二部ではこれも素晴らしいチェリスト、フェイジン&ザラフィアンの、ロシア人二人の華麗な共演でホールを湧かせ、フィナーレの大合唱で平和の歌声を響かせて終演。

今回は更に最後まで心地よい緊張感に包まれた大変良質のコンサートであったとの感想を沢山いただきました。特筆すべき若き青年、プロ声優として活躍を始めた眞對友樹也君が気持ちを込めて司会と朗読を務めてくれました。今後も期待の20代です。若い世代と繋がって行く活動が大きな課題になっていきます。

さて、けやきコンサートの会の内情を申せば、メンバーの高齢化に伴い、私たちにとつての試練の時期が来ています。打開策として、外部の方に広く呼び掛けて、活動を活性化する必要性を感じています。心ある協力者のご参加をお待ちしています。

このような時に某紙上で目にとまった記事を引用してみます。「人生80代が不思議でなくなってきた今の時代。孫子に平和な社会を引き継ぐため積極的に外に飛び出す高齢者が増え始めた。元気に長生きするためにおしゃれ語録が又一つ(教育)今日行く・教養(今日用事)引きこもりが一番良くないそう。更に活動のAKB(あきらめない・こびない・ぶれない)が合言葉になっているとか。来年3月国連で核兵器禁止条約締結交渉が始まるという画期的な情勢の中で、これを切り開いたのは、世界の構造変化と日本の反核平和運動である」と。

私たちけやきコンサートの会も、被爆国に相応しく「反核」を求める政治に目を向けることが原

点でありました。

まずは本間会長の筋の通った社会情勢を聞いたり、学習もしながらけやきコンサートの会について仲間と意見交換をしていきたいと考えられています。本年も宜しくお願い致します。



オープニング 長唄

第35回けやき平和コンサートに出演して

三多摩青年合唱団 団長 三浦幸子

1963年の創立以来「うたごえは平和の力」のスローガンのもと歌い続けている私たちにとつて、けやき平和チャリティコンサートで歌わせていただくことは何より有意義で大変嬉しく思います。平和の思いでお集まり頂いた皆様に、私たちの演奏を聴いていただくと「歌い手」と「聴き手」一体感となっている会場の空気を感じます。合同演奏のコンサート「土の歌」の2曲は、原爆で何もかも消えてしまった広島島の蘇ってきた大地を歌っています。しかし私は歌っているとここ数年で起こった災害の被災地の様子が臉に浮かびます。母なる大地の復興を願ってやみません。今回も出演の機会を頂き有難う御座いました。これからも共に平和を愛し歌い続けましょう。

「第35回チャリティーコンサートに参加して」
 けやき混声合唱団団長 福島啓造

35回チャリティーコンサートは、我が国の伝統音楽の素晴らしさを再認識させる長唄の舞台で華やかな幕開けとなり、女声合唱、三多摩青年合唱団のさわやかで覇気ある歌声、ロシアの音楽家によるピアノとチェロの名演奏に続いて、フィナーレに「けやき混声」「紫金草」「三多摩青年」合唱団合同により平和を希求する歌声でウイーンホールを満たすことができました。

私たちけやき混声合唱団は、今年も平和の願いが人々に届くように、広瀬先生指導のもと練習に励み、ほほ暗譜をして本番に臨みましたが、幸い一週間前に市民合唱祭で演奏曲の一部を歌っていますので皆さん自信をもって舞台上に上がったことと思います。したがってその歌声も力強く伸び伸びとしていて、最後を飾る好演奏になったと自画自賛しています。もちろんこれは広瀬先生と斉藤先生のご指導の賜物であり、一緒にコンサートを盛り上げてくださった長唄やピアノ・チェロの演奏者の皆様、各合唱団員のご協力があったのであり、裏方で支えてくださった役員の方々のお陰であることも忘れてはいけないと思っています。

近ごろ私たちを取り巻く状況は、欧米に限らず中南米やアジアにおいても雇用不安や貧富の格差拡大、難民流入等により既存の枠組みが不安定化しており、各国共に協力や援助よりも自国の利益を優先し他を非難排斥する傾向が強まっています。これは世界平和にとり憂慮すべきことであり、だからこそ私たちはこれから一層平和を願って歌い続けなければと思っています。

第35回けやき平和チャリティー

コンサートに寄せて

続けていく大切さ

眞對れいこ

平和のメッセージをステージから。

第35回を迎えるコンサートは今回も豪華でした。長唄にコーラスに独唱。ゲストにはチェロリストのフェイギン氏と我が師であるザラフィアンツ氏の懐かしいかたがたとの再会もあり、思い出深い会となりました。

まずトップ演目の長唄は圧巻。緋もうせんに金屏風、黒い着物姿も印象的。長唄、三味線、鼓、太鼓、囃子：日本人でありながら、このような機会がなければ生で聴けることの少ない貴重な体験。会場の小学生も大変感銘を受けていました。

48年前に府中市市長唄連盟を創設され、今なお現役で活動を続けておられる日吉三恵治こと今井京子先生は、奇遇にも遠い日の知り合いです。長い時を超え、音楽が再び結び付けてくれた感動を忘れ得ません。

合唱は実にバラエティに富んでいました。たくさん練習を積み重ねた声と心の調和に、平和を願うチカラを感じ、胸が熱くなりました。

むせぶ哀しい心を銀色の霧の粒にのせ、聴く人の胸を優しく包むような独唱も心に残りました。指揮も伴奏も、全てが素晴らしかったです。今回のゲストは日本語堪能なロシア人のお二人。ピアノソロでは、進化し続けるザラフィアンツ演奏の細部に目を閉じて聴き入りました。しなやかに歌うフェイギン氏のチェロと相和して、お二人のデュオはこの上なく甘く美しい芸術の頂点にありました。前回に引き続き、司会を務めた息子の声にもプロの意気込みを見た気がします。

音楽を通して、核兵器廃絶を訴え、福祉や環境保全、平和を願うけやき平和チャリティーコンサートも回を重ねて35年め。今年も多くの賛同者があり、多額の寄付が決定されたと聞きました。

ヒロシマ・ナガサキ・福島・東友会（被爆者協議会）へ贈られた過去35年間の総額が約1500万円にのぼるといふ実績。運営実行に携わってこられた皆様、合唱団の皆様がたのご尽力には頭の下がる思いです。

大勢の意志の力の連携をしみじみと感じ入ったそんな一日となりました。また続けていくことの大切さの陰に、続けていかれることのご苦労はいかばかりかと想像は絶えません。昨冬、がん4期を告げられて以来、命の期限について考えさせられることになりました私も、生に希望をつないでピアノ教師業を続けていくことを決心しています。来年も再来年も、このコンサートを励みにしていこうと思っております。



チェロ・ピアノのデュオ

「平和チャリティコンサート」に参加して

新聞 陽子 (武蔵野市)

プログラムの始まりが、「長唄」だったのは意外でした。府中市に在住の日吉三恵治さんと17人のプロのお仲間が舞台に並んだオーピングはとても新鮮で伝統文化はいいなあと思いました。共にロシア出身のピアニスト エフゲニー・ザラフィアンツさんとチェリスト ドミトリー・フェイギンさんの共演は、とても豪華です。素敵な演奏でした。ファイナーレの大合唱は平和や大地への思いを歌い上げ、輝く表情が印象的でした。

今年は第35回とのこと、多くの人々の平和への願いがあり、たゆまない努力と熱意で35年間も続いてきたんですね。チケット代が2千円なのに多彩なプログラムで平和への思いがぎゅぎゅと詰まったコンサートでした。

「コンサートの感想」

長田真紀子

チェロとピアノの演奏から参加しました。美しい響きにうっとり。セレモニーに続き朗読と合唱、温かい歌声に包まれました。ウイーンホールは満席、立ち見大勢、とても楽しめました。毎年チラシをながめるばかりでしたが今年は初めて足を運ぶことができました。

ゲスト選び、年間を通しての練習、三十五回ものコンサートが続けてこられた舞台、客席の皆様と音楽を楽しめる、これくらいの平和に、感謝します。

NPO法人クッキングハウス

代表 松浦幸子

35回目にもなるというけやきチャリティコンサート。平和な社会を願って、歌で伝えたい思いを表現し続けてこられた歩みは本当に素晴らしい。歌は人の心にストンと深く届いていく。

クッキングハウスの仲間達と早くにコンサート会場に到着したのだが、既にたくさんの方が行列に並んでいてびっく。私達も期待いっぱいわくわくして、最前列に座った。苦勞の人生を歩むことと仲間と歌い続けることを、ずっと前向きに未来を見つめてやってこられた皆さん、椅子に座ったりしながらも歌っておられる姿に心打たれて涙があふれた。年なんか関係ないのだ。歌をうたって心をもっと若くして輝いてほしい。そのため合声団なのだとしみじみ聴かせていただいた。

エフゲニー・ザラフィアンツさんのピアノ、ドミトリー・フェイギンさんのチェロも、なにしろかぶり付きの席なので大満足だった。音楽は国境を越えて繋がっていくのだ。

私達のクッキングハウスも来年30周年。心の病気をして孤独なつらさを抱えて生きてきた仲間が、小さな居場所で元気に生きていることを、自分たちの歌で伝える舞台をやりま。歌づくりのプロセスを楽しんでいます。

平和に生きていくために、私達は文化で闘うのです。



素晴らしい宝物

紫衣草合唱団 山本嘉子

私は二〇一〇年府中紫衣草合唱団に入りました。その後、広瀬先生の指導のもとで平和を願って歌を歌い、けやき平和コンサートにも参加してきました。

今年の平和コンサートのうたは、日常の人生の大切さをしみじみ歌い上げ、観客の方々と共感し合えた気がします。

市民を中心に広範な方々の手つなぎで積み上げてきた平和コンサートは、今、危うくなっている平和をしっかりと腕から離さないよう、末永く続けていけたらと思います。

社会福祉法人ひばり福祉会 矢沢さつき

けやき平和コンサートでは、主に私たちの作った手作りの「こんにやく」や「クッキー」「マドレーヌ」などの焼き菓子、藍染製品など販売させて頂いています。十年前には「コンサート」にも参加させていたこともありました。

「けやき平和コンサート」では、核兵器廃絶や平和についての問いかけなどコンサートを通じて発信されています。いつの時代も「戦争」は悲劇の元凶です。戦争によって多くの不幸な人々や障害者が生まれます。戦争のない平和な世界の実現に向けて微力ながら私も発信していけるといいなあ・・・なんて思っています。



事務局より報告

事務局長 志鎌紀美子

昨年は、府中市平和都市宣言三十周年の記念すべき年でした。改めて戦争・平和を考える意義ある年でもありました。当会では九月にバス研修会を実施し、東京都慰霊堂や都市農業公園を見学し学習しました。十一月五日には府中市や府中合唱連盟の後援を頂き第35回チャリティーコンサートを開催することが出来ました。高野市長を初め多くの皆様のご協力のおかげです。心より御礼申し上げます。

私達をとりまく情勢は、平和を危うくする様子をみせていますが、何としても皆様と共に力を合わせ音楽を通して核兵器廃絶と二度と悲惨な戦争をくり返さぬように平和を訴え、呼びかけて参りたいと思います。尚、今年には左記の団体に皆様からの賛同金とコンサートの収益金の一部を寄付させていただきました事をご報告申し上げます。

チャリティー先

- ① 東友会（東京都原爆被害者団体協議会）
- ② 府中きすげの会（原爆被害者の会）
- ③ 恵みの丘長崎原爆養護ホーム
- ④ 広島市平和推進部
- ⑤ 福島復興支援センター
- ⑥ 原水爆禁止日本科学者会議

チャリティー先からのお礼状

広島市長

松井 一實

本年も広島市の平和行政の推進のために心のこもったご寄付をいただき、誠にありがとうございます。ございました。

広島市は世界最初の被爆都市として、ヒロシマの悲劇を繰り返さないために核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けており、お寄せいただいたご寄付は、広島市の平和推進事業に有効に活用させていただきます。

恵の丘長崎原爆ホーム施設長 堤 房代

今年も皆様からの汗の結晶であります、ご寄付を頂き心から感謝いたしております。

原爆被害者である当ホームの入所者の方々も高齢化が進み様々な後遺症に苦しみながらも過去の痛みを分かち合いながら一生懸命生活されております。

「核廃絶平和を願って」の思いは私達も同じであり、ここ恵みの丘からも核兵器廃絶の実現と一日も早い世界平和を日々願っております。

府中きすげの会会長

木村 京子

昨年の11月5日 芸術劇場のウイーンホールで恒例のけやき平和チャリティーコンサートが開催されましたが、創立35周年という素晴らしい年に当たり時の早い流れを感じ、会の皆様の地道な活動によって頂くチャリティーに毎年感謝しきれない思いを懐いております。府中の被爆者団体の「府中きすげの会」はこの会場のロビーでミニ原爆展で被爆の実相普及のためパネル展示をしています。



ロビーに於けるミニ原爆展



代々木反原発集会

我が団体の府中市在住会員は70名弱で、平均年齢は80歳となりました。最高齢は96歳、最年少は70歳となっております。被爆者の高齢化などで被爆者団体の存続が大きな問題となっております、このチャリティーはけやき平和チャリティーコンサートの賛同者の皆様とこのコンサートに来てくださる方がたからいただいていると毎年ありがとうございます。ご頂戴しております。

9月12日バス研修会報告

運営委員 勝谷 寛子

はじめに「都市農業公園」を、園の方の案内で見学しました。稲が実ってもうすぐ収穫を迎えるようです。桜の木は30種90本あり春には咲きほころび楽しめるそうです。園内には古民家、長屋門なども移築されています。荒川に面した所にあり素敵などあります。無農薬で育てられた野菜なども売っていました。その野菜等を使って自然食のレストラン（みはらし茶屋）を行っており、そこで美味しい昼食をいただきました。

その後「東京都慰霊堂」を見学しました、私は、はじめて行きました。ここは関東大震災で亡くなられた方、東京大震災で亡くなられた方を合祀されています。関東大震災の犠牲者約5万8千人、東京大震災犠牲者約10万5千人です。

当日「復興記念館」は休館日でしたが特別の計らいで見学をさせていただきました。東京大震災の写真などは見る機会がありました。関東大震災の資料はほとんど見ることがありませんでした。広場に避難して来た人や銀座の様子など大八車を引く人、子どもたちの着物姿等々映し出されています。

大正12年9月1日相模湾内に発生した巨大地震は神奈川県より東京市内に大きな被害をもたらしました。グラフには東日本大震災と同じように広範囲で津波や液状化の発生が見られ地震発生後津波が数分で到達したところもあるそうです。と記されています。

現在あちこちで地震や津波等、起きており他人ごとではありません。当時の事を知って学ぶことが大切と思いました。

バス研修会に参加して 小岩井雅人

平成二十八年九月十二日（月）午前九時〜午後四時足立区にある都市農業公園では自然と向き合い無農薬で作った野菜を使ってお昼にハンバーグカレーライスをごちそうになりました。

ロビーで羽を立てて振るわせる鈴虫を見て「あなたは誰のためにそんな美しい音を奏でているのですか」と思わず尋ねました。午後に行った東京都慰霊堂には「関東大震災」、その後の「東京大震災」の霊を供養、安置するために建てられたものであります。昔「江戸」と呼んだこの地域は大火に見舞われることが多く、次の時代に少しでも被災者を減らせるようにと先人の知恵と多くの苦労の上に我々が生きていることを実感しました。話は変わりますが八月に私は法事で広島を訪問しました。このたび広島に投下された原子爆弾で被災した伯母がが死没者名簿に搭載されましたので、赤穂浪士とも所縁のある国泰寺から瀬戸内海を眺めながらもう一人の伯母が「あそこの島から宮島まで泳いだのよ」と子どもの頃の楽しい思い出を語る反面、「このしま」「えだじま」などその後戦争により有名になった島も眼下にせまっています。この景色はこれから誰が見ても心とらぐ美しいと感じるものでなければならぬと決意を新たにしました。

バス研修会に参加して 中川 修

私は小学生の頃まで王子神谷町に住んでいたの、日曜日には隅田川で釣りをする釣り大好き人間でした。時には遠征と称して渡し船に乗り、荒川放水路の中州にある沼でザリガニ釣りを楽しみました。

中洲の対岸が「都市農業公園」なのでした。園内では当時の子供に帰った気分です。古く良き時代の田舎が巧みに凝縮、配置されています。刈り入れ時の田園があり、柿の木の下にはもぎ取ろうとする子供の像、石榴の実が垂れ、目を向けると古民家や長屋門などあります。

次の目的地は両国にある「東京都慰霊堂」です。関東大震災及び昭和十九年から始まった東京大震災で亡くなられた十三万余の霊が祀られています。

「現在は平和と言ふ感覚もないまま生活をしているが将来それが脅かされたら被害を被るのは結局我々一般庶民なのだ。それを各自が強く自覚していなければいけない」と改めて感じました。



都市農業公園

*定期総会

今年度の予定

日時 二月二十五日（土）午後一時半より

場所 白糸台文化センター

*バス研修会

日時場所 未定

*第三六回チャリティーコンサート

日時 十月六日（金）午後

場所 府中の森芸術劇場ウィーンホール